

くらしの危険

Number

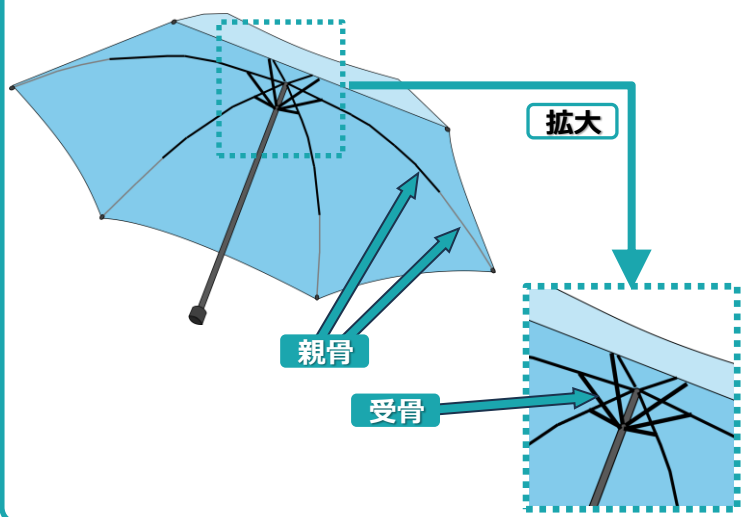
388

ガラス繊維強化プラスチック によるけがに注意！



ガラス繊維強化プラスチックが使用されている箇所

ガラス繊維強化プラスチックが使用された商品から飛び出したガラス繊維を触ってけがをした等の相談が寄せられています。ガラス繊維強化プラスチックは、細いガラス繊維の束に樹脂をしみ込ませて成形したもので、傘の骨、園芸用ポール、テントの支柱など、軽量で弾性が求められる部位に用いられることがあります。ガラス繊維は細く肉眼では見えづらいため、露出した部分に触れると、けがをするおそれもあります。



独立行政法人
国民生活センター

National Consumer Affairs Center of Japan

👉 こんな事故が起きています

【事例1】傘による事故

子どもが人とすれ違うときにぶつかり、グラスファイバー製の傘の親骨が折れて細かなガラス繊維が手に刺さった。特に子どもには危険な商品だと思う。

(2022年10月受付、被害者属性不明)

【事例2】園芸用品による事故

園芸ボールに素手で触れたところ、粉状のガラス繊維が飛び散り、体中に刺さった。

(2023年7月受付、80歳代、女性)

【事例3】玩具・遊具による事故

中国の通信販売サイトで購入した屋根付き浮輪の支柱が折れて中から、グラスファイバーが出た。その部分に手で触れてしまい痛い。どうしたらよいか。

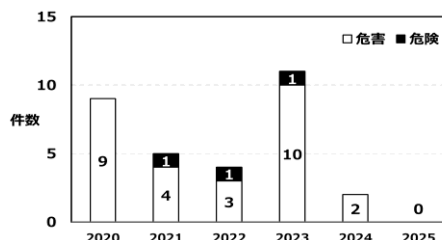
(2024年6月受付、50歳代、女性)

【事例4】アウトドア用品による事故

テントのグラスファイバー製の骨を組立て中、ガラスが指に刺さった。病院に行ったがまだ指先が痛い。

(2023年8月受付、30歳代、女性)

年度別の危害・危険件数の推移



PIO-NETには、2020年度からの約5年間に、ガラス繊維強化プラスチックでけがをしたという危害情報が28件、けがをするおそれがあったという危険情報が3件寄せられています。

ガラス繊維の先端が露出した傘の骨

ガラス繊維の先端

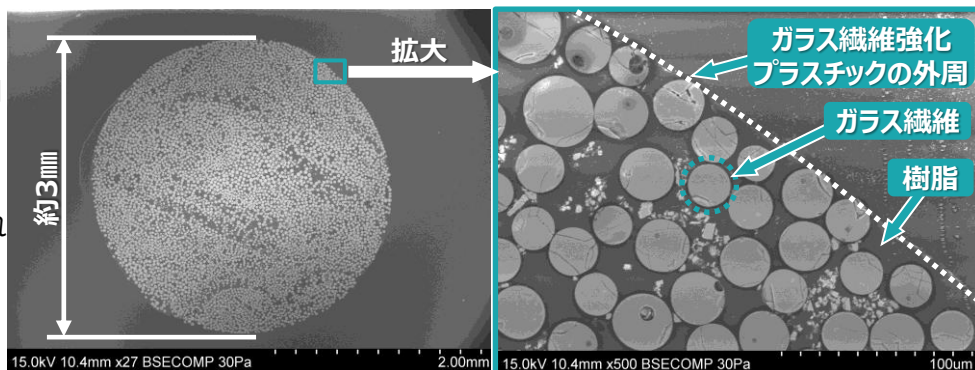
傘の骨

1.0mm

🔍 傘の骨を観察したところ・・・

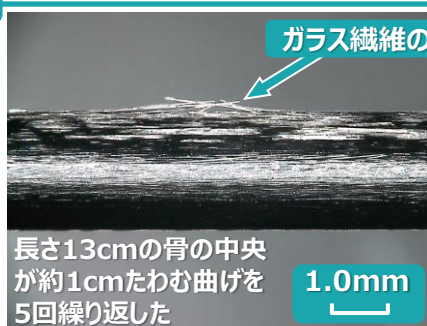
断面の観察

走査型電子顕微鏡を用いてガラス繊維強化プラスチックが使用されている長傘の親骨の断面を観察したところ、直径30μm前後のガラス繊維が、約5,000～10,000本束ねられて樹脂で固められており、樹脂表面付近にまでガラス繊維が出ている様子が観察されました。

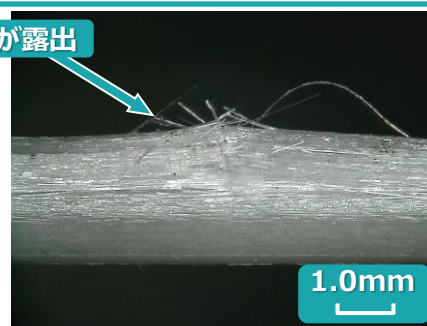


曲げたり傷つけたりした場合

傘の骨に力を加えてゆるやかに曲げる操作を繰り返したり、表面を傷つけたりすると、表面にひびが発生し、ガラス繊維の先端が表面に出てくることがありました。表面を傷つけた場合には、表面にあるガラス繊維が切断され、切断された端が露出しました。



ゆるやかな湾曲を繰り返した場合



表面を傷つけた場合

⚠️ 消費者へのアドバイス

・ガラス繊維強化プラスチックは、表面からガラス繊維の先端が露出していることがあるため、不用意に素手で触らないなど取扱いには注意しましょう。

・ガラス繊維が皮膚に刺さって痛みが続く場合は、医師の診察・処置を受けましょう。

